



コレクション展 2020—春

特集 浜地清松



1. 浜地清松《赤い帽子》1928（昭和3）油彩、キャンバス 当館蔵

2020年4月25日[土]—6月21日[日]

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、
イベント等の開催を見合わせる可能性があります。

和歌山県立近代美術館

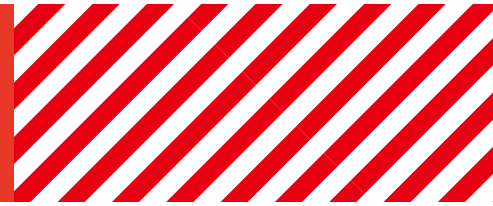
〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp WEB <http://www.momaw.jp/>

コレクション 2020-春 特集 浜地清松

2020年4月25日(土)～6月21日(日)



1963年開館の和歌山県立美術館を前身とする当館は、日本で5番目となる国公立の近代美術館として、1970年11月に開館しました。県民文化会館と同じ建物で活動したのち、1994年に、建築家の黒川紀章が設計した現在の建物へと移転し、展示空間や保存環境を拡充させました。開館以来、当館は和歌山ゆかりの作家を中心とした展覧会活動や収集活動を継続し、現在ではその範囲を国外にまで広げ、日本画、洋画、彫刻、版画など、総数1万点を超える作品を所蔵するに至っています。所蔵作品を紹介するコレクション展においては、幅広い美術の表現に接していただけるよう、季節ごとに展示を替え、さまざまな観点から作品紹介を続けています。なかでも、展示の主要なテーマとしているのが、「和歌山ゆかりの作家と近現代の美術」です。さらに、滋賀県立近代美術館が増築・改修をおこなうにあたり、その休館中に同館のコレクションの一部を当館で公開することとなりました。

今回は、ふたつの近代美術館のコレクションにより近現代美術の流れをご覧いただけるよう構成し、特集展示も設けて、作品を展示します。特集展示では、現在の和歌山県串本町に生まれ、アメリカ、そしてフランスで学んだ和歌山県出身の洋画家・浜地清松(はまじせいまつ)(1885～1947)を、浜地と交流のあった作家や同時代の作家たちの作品とともに、紹介します。

開催概要

会場 和歌山県立近代美術館 1階展示室
会期 2020年4月25日(土)～6月21日(日)
開館時間 9時30分～17時(入場は16時30分まで)
休館日 月曜日(ただし、5月4日は開館、5月7日(木)休館)
観覧料 一般350(270)円、大学生240(180)円
()内は20名以上の団体料金
*高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の
外国人留学生は無料
*第4土曜日(4月25日,5月23日)は
「紀陽文化財団の日」大学生無料



2. モーリス・ルイス ダレット・ペー 1959(昭和34)
アクリル絵具、キャンバス 滋賀県立近代美術館蔵

関連事業

● フロアレクチャー (学芸員による展示解説)

【日時】5月4日(月・祝)、6月20日(土)
14時～ 展示室にて(要観覧券)

※新型コロナウイルス感染症の
拡大状況によっては、開催を
合わせる可能性があります。



3. 佐伯祐三 オブセルヴァトワール附近
1927(昭和2) 油彩、キャンバス 当館蔵



4. 川口軌外 キャフェにて 1927(昭和2)
油彩、キャンバス 個人蔵

※文字のせ、トリミング等のご遠慮ください。
掲載用画像については広報担当にお問合せ下さい。

特集 浜地清松

アメリカ、そしてフランスで学んだ和歌山県出身の洋画家・浜地清松（はまじせいまつ）（1885～1947）を、浜地と交流のあった作家や同時代の作家たちとともに紹介します。和歌山県からは戦前、多くの人々が移民としてアメリカに渡っていますが、浜地もそのひとりです。紀伊半島の南端にある和歌山県串本町津荷（つが）に生まれた浜地は、1901（明治34）年に兄を頼って渡米します。そして1909（明治42）年にボストン美術館附属美術学校を卒業後、ニューヨークに移り住みました。ニューヨークでは、図案制作などで生計を立てながら作品を制作し、郷里に近い太地町出身の石垣栄太郎（1893-1958）や国吉康雄（1889-1953）ら同地の日本人画家たちとも交流しています。1920（大正9）年に帰国した後は、郷里の少し北にある新宮市で洋画研究所を開きますが、1925（大正14）年に再び渡米。1927（昭和2）年にはパリへ渡りました。パリ滞在中に大きな公募展（サロン）に何度か出品して入選を果たし、1928（昭和3）年に帰国してすぐの帝展（帝国美術院展覧会）では、《赤い帽子》が特選となるなど評価を高めました。翌1929（昭和4）年には、第一美術協会の結成に参加。1947（昭和22）年に逝去するまで同会や帝展、新文展などを中心に活躍しました。古典的でアカデミックな作風を展開した浜地の作品は、例えば同時期にパリに滞在した佐伯祐三（1898-1928）たちと比較すると「新しい」絵画ではないかもしれませんが、しかしその執拗な描写と画面構成は、浜地独自のもので不思議な魅力を放っています。浜地は残された作品が少なく、経歴にも不明な点が多いのですが、近年少しずつ作品や情報が集まってきました。この特集は、浜地清松の没後、初めて作品がまとめて紹介される機会となります。



5. 浜地清松《裸婦》1928（昭和3）油彩、キャンバス 当館蔵



6. 浜地清松《暖炉》1911（明治44）油彩、キャンバス 当館蔵



7. 浜地清松《静物》1922（大正11）油彩、キャンバス 当館蔵

※文字のせ、トリミング等のご遠慮ください。
掲載用画像については広報担当にお問合せ下さい。

浜地清松 略歴

- 1885 (明治 18) 年 和歌山県東牟婁郡古座町津荷 (現在は串本町) に生まれる。
- 1901 (明治 34) 年 兄を頼って 16 才の時渡米。サンノゼ・ハイスクール (カリフォルニア) からボストン美術館附属美術学校へ進学。
- 1909 (明治 42) 年 卒業後、ニューヨークに移る。雑誌の挿絵や、図案制作などで生計を立てながら画家として活動したという。ニューヨークでは、国吉康雄、犬飼恭平、石垣栄太郎、澤部清五郎といった日本人芸術家たちとも交流を持ち、展覧会に出品。
- 1920 (大正 9) 年 帰国し、新宮で新宮洋画研究所を開く。
- 1925 (大正 14) 年 再渡米。
- 1927 (昭和 2) 年 ニューヨークで開かれた邦人美術展覧会には石垣栄太郎や国吉康雄らと参加し、油彩 3 点を出品した。展覧会終了後にフランスに渡る。パリではル・サロン、サロン・ドートンヌなどのサロン展に出品し入選。
- 1928 (昭和 3) 年 帰国し、東京に住む。同年、第 9 回帝展に出品した《赤い帽子》が特選に選ばれ、翌年には無鑑査で《古典の聯想》を、翌々年には《聖書を持つ少女》を出品。
- 1929 (昭和 4) 年 栗原忠二、青山熊治、片多徳郎、御厨純一、北島浅一、江藤純平らとともに第一美術協会を結成し、同会を中心に活動する。
- 1934 (昭和 9) 年 和歌山県観光協会の依頼により、南紀美術会の会員、建畠大夢、狩野光雅、園部邦香、木下義謙、大亦観風と共に和歌山、根来、粉河、高野山等を見学、名勝紹介の絵を描く。
- 1936 (昭和 11) 年 文展や新文展に連続して出品。太平洋戦争勃発後は従軍画家として中国戦線を視察するなどし、戦争画も手がけた。
- 1944 (昭和 19) 年 戦時特別展への出品を最後に郷里に戻る。
- 1947 (昭和 22) 年 古座町津荷の自宅にて逝去。



8. 国吉康雄 《乳しぼり》 1921 (大正 10)
油彩、キャンバス 当館蔵



9. 石垣栄太郎 拳闘 1925 (大正 14)
油彩、キャンバス 当館蔵



10. 澤部清五郎 《細育の花売り》 1912 (大正元)
水彩、紙 当館蔵

【同時期開催】

企画展「もようづくし」

【会期】4月25日(土)～6月28日(日)

【会場】2階展示室

企画展 なつやすみの美術館 10

あまたの先日ひしめいて今日

【会期】7月11日(土)～8月30日(日)

【会場】2階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：奥村一郎 広報担当：和佐

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表)

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>